

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育) / 湯口 雅史

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容: 実地教育分野を担当している自分は、「教育実習の充実」を最重要課題として今年度は設定している。特に、主免教育実習に望む学生をどのように教育実習期間中に学ばせるか、4週間という期間の中でどれだけ多くのことを学生自身が自分の中に落とし込めるか、その心構えや学ぶ力を付けていきたいと考えている。そのためには、主免教育実習事前指導の内容を授業力向上に設定していたことから、教育的人間性や協働力の育ちも視野に入れた内容に変更する。
②授業方法: 教育的人間性、協働力を視野に入れた授業内容を構築するために、学校現場において対面する様々な事柄について自分で考えたり行動したりする判断場面を授業の中に取り入れたいと考えている。その一つの方策として、質問紙を作成しその中で教育場面を想定し、判断させることで学校現場の状況を理解させていきたい。この質問紙の内容については、昨年現場の教員に実施したアンケートをもとに作成する。
③成績評価: この教育場面判断質問紙は、設定されている回答肢から選択させる方式をとるが、何故そのように考えたかの理由を重視する。その説明回答を評価し、教育的人間性、協働力について著しく勘違いしている学生について、後に特別時間を設け指導する。このように、教育現場の教員思いや考えを理解させた上で、主免教育実習へ参加させ、充実した実習を送らせたいと考えている。

この、教育場面判断質問紙の実施が、教育実習参加要件の一つとして考えていきたい。

2. 点検・評価

①授業内容: 実施教育担当教員として、教育実習の質的充実を担保するために授業力向上に賞嘆を当てるのはもちろんのこと、それを支える「教育的人間性」や「協働力」に対して意識しながら教育実習に参加できるよう、主免教育実習事前事後指導、主免教育実習の充実に努めることができた。
②授業方法
○主免教育実習事前指導において、「教育的人間性」「生徒指導」の要素を含む教育場面考動診査を行った。これにより、現場の教員の教育に対する責任感や思い願いを理解させることができた。
○主免教育実習直前指導(実習開始3日前)を行い、学長先生の訓話を取り入れ、実習生の意欲を高めたり、服装チェックや心構えをレクチャーすることで、実習に対する安心感を与えることができ、例年になく服装や態度という面の附属教員からの指導はなく、授業実践力向上という目標に対して集中した教育実習を行うことができた。
○実習期間中はできるだけ附属校に駐在し、実習生の様子を観察し、必要に応じてアドバイスを行った。
③成績評価
主免教育実習に関して、附属小学校において、形成的評価を充実させるため実習生、指導教員の評価規準となる「教育実習ルーブリック」を作成し使用した。この形成的評価を参考に、成績評価を行った。その結果、今年度は、主免教育実習、副免教育実習とも全員が単位を修得することができた。さらに、協力校実習においては、評価授業の授業評価シートを作成し、協力校における成績評価に行かすことができるよう整備を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

目標:実地教育分野において、教師としての資質能力を高めるべく、附属校との連携を密にして取り組む。
計画:実習校へ出向き、学生の状況を担当教員と共通理解し、指導にあたる。教育実習期間中は特に、オフィスアワーを充実させ、附属校退校後にも相談を受けられるよう計画する。

2. 点検・評価

中間報告と同様に、主免教育実習、副免教育実習期間において、毎日附属小学校に出向き実習生の観察を通して、アドバイスを行うことができた。さらに、評価授業前には、積極的に実習生にかかわり、指導案作成や教材教具制作について、アドバイスをを行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

目標:質的研究分野を開拓したいと考えている。教育実習研究にあたって、学生が教師文化にどのように参加していくか、その参加の仕方を質的研究によって明らかにしていきたい。そのためには、質的研究技術の向上が必要と考え、今年度は足繁く附属校に通い、実習生の行動を観察し、参与観察技術の向上を目指したい。
また、教育実習を充実させるための「教育実習ルーブリック」を作成する。さらに、1年次からの教育実習の体系化を図る。
計画:観察実習、ふれあい実習、主免教育実習、副免教育実習という実習にできるだけ参加し、実習生の行動を観察し、エスノグラフィーとしてまとめることで、質的研究技術の向上を図りたい。
附属校の先生と連携し、鳴門教育大学評価スタンダードをもとに、ルーブリックを作成する。教育実習の体系化を図り、教育実習のパンフレットを作成する。

2. 点検・評価

○質的研究を行うにあたって、実習生の様子や公立校での授業観察、授業実践を通して、研究ノートを作成し、観察技術を向上させようと努めた。来年度は、教育実習期間において、実習生の質的变化について質的研究データを収集する予定である。
○教育実習評価ルーブリックを完成させ、附属小学校において活用した。実習生からは、自己の振り返り使用することにより自分の変化や課題が明確になったという実習録への記述があった。平成26年度は、附属中学校への活用も含め改良を加える予定である。附属校の教員が若年齢化している現状においては、この教育実習評価ルーブリックの活用は、機能すると考えている。
○本学実習の体系化については、プロジェクト研究成果報告書にも記載したが、2年次の教育実習について見通しがもてるまで整備できた。平成26年度は、平成27年度実施に向けて整備していきたい。
○教育実習参加要件の1つとして、医療系大学で実践されている共用試験を参考に、「主免教育実習自己検定(仮)」実施に向けての整備を行った。問題例も作成し、平成26年度は試験実施を行いたい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

教育実習の充実を図る。昨年度、いくつかの大学へ訪問調査を行った結果、本学の教育実習オリジナリティーのなさが明らかになった。また、教育実習の位置付けもコア・カリキュラムのコアの部分にありながら附属に任せっきりの部分が多く見られた。附属校との連携を図りながら少しずつ改革していきたい。

2. 点検・評価

教育実習に関して、附属校園との連携を昨年度より強化できたと考えている。具体的には、教育実習期間中の附属校園の駐在時間の増加、各校実習担当の先生方と行う検討会の実施等、附属校に関わる時間を多く取り、意思疎通を図れるよう計画、実践した。

さらに、教育実習参加要件検討に伴い、教育実習自己検定実施の見通しをもつことができ、四国4大学の連携を模索できるところまで整備できた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

昨年度は、附属校で体育授業を行わせてもらった。教育実習指導の充実という意味においても体育研究を行っていない教員のクラスに入り授業を行うことで、担任の先生の研修になるのではないかと考える。今年も、幾人かの先生からの要望が届いている状況の中、積極的にかかわっていききたい。また、昨年度は徳島県下の小学校について、体育の出前授業を24校25授業行った。このことについても、昨年以上の校数と授業数を目指したい。

2. 点検・評価

○中間報告には、主免教育実習について、附属校との連携について報告したが、副免教育実習についても同様にほぼ毎日、附属小学校に駐在し実習指導にあたった。さらに、平成26年度に向けての話し合いも設け、教育実習に関しては連携が強化されつつあると感じている。

○附属小学校において、6年生、4年生、3年生の体育授業を行った。さらに、昨年同様、附属小オープンスクール日においても、3年生「ハードル走」の授業を公開した。

○今年度は、徳島県の小学校24校、64時間、約1600人の子ども達に、体育授業を行うことができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

○現場の先生から、教職大学院制度について聞かれることがあり、自分の把握している範囲で説明を行っている。
○教育実習充実に向けて、教育実習の体系化を検討し、他大学教育実習の質的状況と遜色ない内容にまで整備できる見通しをもつことができた。